

第3期蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案） に対するパブリック・コメント概要

1. 案 件

第3期蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

2. 募集期間

令和7年2月7日（金）～2月27日（木）

3. 意見の件数（意見提出者数）

5件（3人）

4. 意見等の概要

No.	意見の概要	市の考え方
1	蕨市でも少子高齢化が進行しており、健康寿命の延伸とともに、要介護の状態に至る前段階であるフレイル（身体的、精神・心理的、社会的）の予防が重要となっている。このため、本戦略についても、フレイルに関する記載をしてはどうか。 また、フレイルの概略やデータをまとめ、配布してはどうか。	超高齢社会においては、高齢者の皆さんが元気でいきいきと暮らし続けられるまちづくりが大切であり、ご意見のとおり、健康寿命の延伸に向けた介護予防の取組は非常に重要だと考えております。 このため、本戦略においても、基本目標Ⅳ「みんなにあたたかくだれもが健康で住みやすいまちをつくる」では、スマートウエルネスシティ（健康で幸せなまちづくり）の実現に向けた事業をはじめ、フレイル予防を含む具体的事業として「介護予防事業の実施」などを掲げ、市民の皆さんの健康づくりを支援することとしているため、原文のままとさせていただきます。 なお、フレイルの周知につきましては、市HPやリーフレットの配布などを通じて行っているところですが、いただいたご意見については、今後の事業実施に当たり参考とさせていただきます。
2	「地域の交流拠点」と「にぎわい交流拠点」を個別に整備するのではなく、合同拠点（市主導のコミュニティカフェなど）として整備することで、相乗効果も期待できるのではないかと。 また、施設（モノ）を整備するだけでなく、特色のあるイベント（コト）の開催に力を入れることで、蕨市をブランディングできれば良いと考える。イベントについては、現在開かれているマルシェや映画、音楽などに加えて「本」に関するものを	本戦略において、「地域の交流拠点」は、錦町コミュニティ・センター（西公民館・松原会館）の錦町地区内での移転・建替えによる整備を、「にぎわい交流拠点」は、市役所仮設庁舎跡地を活用した中山道地区における拠点整備を指しており、その役割に応じて個々に整備を予定しているものでございます。 しかしながら、単に施設を整備するだけでなく、拠点間を繋ぎ相乗効果を生み出していくことが重要であることから、現在、蕨の玄関口としてふさわしい集客の拠点となるよう再開発事業（駅前広場含む）を進めている蕨駅西口地区と、中山道の交流拠点を結ぶ駅前通りをリニューアル整備し、イベント等のソフト事業の充実

	取り入れてはどうか。	を含めて、創出されるにぎわいや人の流れを市全体に回遊させる仕組みづくりに取り組むことなどを通じて、まちの魅力を高め、選ばれるまちづくりを推進していくこととしております。 なお、ご意見にあります具体的なイベントのご提案については、今後の事業実施に当たり、参考とさせていただきます。
3	蕨市の現況と課題の「①安心して子どもを産み育てられるまちづくり」について、過去の国勢調査からの人口の純移動で、蕨市に転入してきた若い世代が、結婚・出産・子育て期になると、子どもを連れて市外に転出している傾向がある。この傾向に対しての分析と対策が基本目標Ⅱ「子どもたちの未来輝くまちをつくる」にどのように反映しているのか。	蕨市では若年単身者の転入が多い一方、地価が県内においても高いことから、住宅の取得が難しく、近年その傾向は緩やかになっているものの、住宅取得等を契機とした子育て世代の転出傾向が続いております。 そのため、引き続き、子ども・子育て支援の一層の充実などにより、子育て世代の定住促進を図ることが必要であると考えております。 こうした課題を受け、本戦略では、基本目標Ⅱ「子どもたちの未来輝くまちをつくる」において、妊娠期からの切れ目のない包括的な支援に向けたこども家庭センター機能や多様なニーズに対応できる保育環境の充実など、安心して子どもを産み育てられる環境づくりをはじめ、子どもたちの教育環境の充実、安心できる居場所づくりなどを進めてまいります。さらに基本目標Ⅲ「にぎわいあふれる元気なまちをつくる」においても、子育て世代の定住促進等に向けた三世代ふれあい家族住宅取得支援事業や、ファミリー向け住宅整備を含む蕨駅西口再開発事業の推進、子育てしたいまち情報発信事業などを具体的事業として掲げており、こうした取組を一体となって進めていくことにより、人口減少社会にあっても、選ばれる魅力あるまちづくりを目指してまいります。
4	蕨市の現況と課題の「②だれもがいきいきと住み続けられる魅力あるまちづくり」について、外国人住民が 12.5%という状況で、今ある多文化共生指針の見直しは必須と思われる。市民生活に根差した施策を検討していただきたい。何か数値目標を作って取り組んで欲しい。	国籍や民族、文化などの違いを認め合い、ともに豊かに暮らしていく多文化共生の取組は、多くの外国人住民の皆さんが暮らす本市において非常に重要だと考えております。 このため、市では、令和4年3月に「蕨市多文化共生指針」を策定し、各分野の取組を推進するとともに、本戦略においても、「多文化共生や多様性に配慮したまちづくりの推進」を位置付けております。 ご意見にあります数値目標につきましては、施策を包括するものとして設定していることから、個々の事業に対して設定することは難しいものでありますが、本戦略は、市の最上位計画である「コンパクトシティ蕨」将来ビジョンⅡ（以下「将来ビジョンⅡ」という。）等に基づき作成しており、将来ビジョンⅡでは、多文化共

		生に関する指標を設け、進捗状況等の確認も行っておりますので、ご理解をいただきたく存じます。 なお、「蕨市多文化共生指針」の見直しにつきましては、現計画が令和8年度までとなっていることから、今後、担当部署において、計画期間中の実績や課題等も踏まえ、検討することとしております。
5	基本目標1「安全・安心で環境にやさしいまちをつくる」の（1）安全安心・エコシティブプロジェクトについて、数値目標の指標として、防災訓練の実施率と併せて37町会の簡単で分かりやすい防災計画の立案状況なども出すと良いと思う。その場合、市がひな形を作成して同じ様式にして欲しい。	基本目標Ⅰ「安全・安心で環境にやさしいまちをつくる」では、地域の防災力の向上を示す指標として「自主防災組織による防災訓練の実施率」を設定しており、具体的事業に掲げる自主防災組織（市内全37町会に組織）への支援などを含め、自助・共助・公助の取組による防災都市づくりを加速化することとしております。 ご意見にあります、町会ごとの防災計画の立案状況や作成支援については、各町会からの要望や状況等も踏まえ、今後の事業実施に当たり、参考とさせていただきます。